

1学期	4月	7 (書く2)	一 登場人物のしんじょうをそうぞうして読もう いつか、大切なところ 教科書:P14 □登場人物の心情の移り変わりを考えながら読む。 ★ここが大事:しんじょうを読む ☆学習用語:情景／心情／中心人物／登場人物／題名／擬音語／擬態語／作者／対句／倒置／反復／比喩	読む	1 <見通しをもとう> 1. 単元扉を読んで、学習の見通しをもつ。 2 <たしかめよう> 2. 登場人物と中心人物を確認し、中心人物の心情の変化について考える。 (1)登場人物と中心人物を確認する。 (2)中心人物である亮太の心情が、物語の中でどのように変化したかを確認する。 3・4 <くわしくよう> 3. 揺れ動く亮太の心情について、工夫してノートにまとめる。 * 亮太の揺れ動く心情がわかる表現に傍線を引いて場面ごとに抜き出し、表やふさだしなどを使ってその時の亮太の心情を考えてノートにまとめさせる。 * 「ここが大事」にもあるように、登場人物の心情が、表情、態度やしぐさ、会話やつぶやき、情景などによって表現されている。「効果的な表現の例」としてあげられている比喩、反復、擬音語、擬態語、倒置、対句などに注意して読ませる。 * この物語は、語りによって展開されている。語り手が述べているところにも、登場人物の心情が表現されていることもおさえるとよい。 * 心情曲線にするなど、視覚的に捉えてもよい。 * ノートではなく付箋紙や短冊を使用するなど用紙を工夫してもよい。 5・6 <まとめよう> 4. 題名「いつか、大切なところ」について、亮太にとっての意味を、心の動きを手がかりに考える。 <つたえあおう> 5. 題名「いつか、大切なところ」について考えたことを共有する。 * 互いの考えの違いに着目したり、よいところを認め合ったりして、考えを広げさせる。 7 <ふり返ろう> 6. 学習を振り返る。	【知識・技能】 ◎比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。(1)ク) 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。(C(1)イ) ○「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C(1)エ) 【言語活動例】 ・詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。(C(2)イ) 【態度】 ・すすんで物語の全体像を具体的に想像し、学習の見通しをもって、登場人物の心情の移り変わりを考えながら読もうとしている。
1学期	5月	4 (書く1)	情報の宝箱 新聞を読もう 教科書:P32 □新聞の仕組みを知り、それをもとに同じできごとを扱った新聞記事を読み比べたり、内容や見出し、写真などについて気づいたことを発表し合ったりする。 ☆学習用語:記者／逆三角形の構成／本文／マスメディア／見出し／要点／リード(前文)／解説／コラム／トップ記事／評論文／割り付け	読む	1 1. 学習の見通しをもって教科書を読み、新聞の仕組みや内容への興味・関心を高める。 2. 新聞の仕組みを理解する。 (1)新聞の特長や新聞記事の構成、見出しやリードなどの用語を知る。 (2)図や写真などの載せ方や配置(わりつけ)について確認する。 * 実際の新聞記事を活用することもできる。 2 3. 新聞の構成を比べ、違いについて考える。 (1)新聞の内容や興味のある記事について伝え合う。 (2)新聞の構成について、図や写真の載せ方や配置(わりつけ)を中心に比べ、気づいたことを話し合う。 * 話し合いでは、前時に学んだ「見出し」「リード」「本文」「写真・図・解説」といった用語を用いたい。 3・4 4. 同じできごとを扱った新聞記事を読み比べ、内容や見出し、写真などについて気づいたことを話し合う。 * 記事で印象に残った言葉や、内容に着目して考えるように促す。 * 考えた見出しが実際の記事と異なるかどうかより、児童の理由づけがしっかりできているかどうかで判断したい。 5. 新聞についてわかったことをまとめ、お互いの考えを共有しながら学習を振り返る。 * 四年で学習した『写真から読み取る』『作ろう学級新聞』など、今までの学習内容も想起させたい。	【知識・技能】 ◎情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。(2)イ) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) ◎「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。(C(1)ア) ○「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。(C(1)ウ) 【言語活動例】 ・事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。(B(2)ア) ・説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめたりする活動。(C(2)ア) ・学校図書館などを利用し、複数の本や新聞などを活用して、調べたり考えたりしたことを報告する活動。(C(2)ウ) 【態度】 ・すすんで新聞の仕組みを知り、今までの学習を生かして新聞記事を読み比べたり、内容や見出し、写真などについて考えたことを話し合ったりしようとしている。
1学期	5月	3 (書く3)	情報を集めて整理しよう 情報ノート 教科書:P38 ■興味をもったり、疑問に思ったりしたことについて、情報を集めて「情報ノート」を作る。 ☆学習用語:情報／資料／新聞／出典／見出し	書く	1 <見通しをもとう> 1. 「情報ノート」を作る目的と意味を理解し、学習の見通しをもつ。 * 情報の集め方と、それぞれのメディアの特性を交流する。 2・3 2. 情報を集める。 * 知りたいことと情報媒体の特性を考えて集めさせる。 * この「情報ノート」を今後も活用するために、書いておく必要のあることを確認する(出典・日付・筆者・出版社・URLなど)。 3. 使う情報を選び、「情報ノート」を作る。 * 「初めて知ったこと」「疑問に思ったこと」などの観点にそって、資料(新聞記事など)に端的に線を引くよう指導する。 <ふり返ろう> 4. 学習を振り返る。 * 「情報ノート」を作るためにした工夫を、価値づけられるようにする。	【知識・技能】 ◎原因と結果など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【言語活動例】 ・事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。(B(2)ア) 【態度】 ・目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから積極的に知りたいことを選び、学習課題にそって情報を集めて「情報ノート」を作ろうとしている。

1学期	5月	1	漢字の広場① 漢字学習ノート 教科書:P40 △新しく学ぶ漢字や既習の漢字を取り立て、音訓・意味・使い方などを調べて漢字学習ノートを作る。	漢字	1	1. 学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 2. 「漢字学習ノート」にまとめる手順を理解する。 3. P40を参考にして、既習漢字の中の一字について、読み方・意味・使い方などを調べ、短文を考えて、「漢字学習ノート」に書き、まとめる。 * 新出漢字の学習に生かすためのノートであることをおさえる。 4. 「漢字学習ノート」に書いた使い方と短文をそれぞれ発表し合う。 * 年間を通して自主的な学習が続けられるよう、具体的な作成手順をしっかりとし身につけさせる。 * 新出漢字の日常学習として継続できるようにはたらきかける。 5. 「豆知識」コーナーの具体例を知り、その中から一つ選び、作ってみる。 書いた「豆知識」を発表し合う。	【知識・技能】 ◎文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書いている。((1)ウ) ◎前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。((1)エ) 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見通しをもって「漢字学習ノート」を作ろうとしている。
1学期	5月	1 (書く1)	四年生で学んだ漢字① 教科書:P42 △絵を見て想像したことをもとに、4年生で学んだ漢字などを使って文を書く。	漢字	1	6. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 7. 四年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 * 描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。 * 読み手が理解しやすいように伝えたいこと、知らせたいことを明確にして書くようはたらきかける。 * 「絵の中の言葉を二つ使って書く」など条件をつけて文を書くよう促すと、記述の仕方に工夫が見られるようになる。 8. 作った文を互いに発表し合う。 * 互いのよいところを発表し合うとよい。 9. 学習したことを振り返る。	【知識・技能】 ◎前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。((1)エ) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。(B(1)イ) 【言語活動例】 ・事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。(B(2)ア) 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題にそって、教科書の絵を説明する文を書くとしている。
1学期	5月	1	二 事例と解説をもとに筆者の考えを読みとこう ことなる見方 教科書:P44 □異なる見方についての事例と解説を読み、見方の違いに気づくことがわかり合うための第一歩だという筆者の主張に関心をもつ。 ☆学習用語:事例／解説／主張	読む	1	〈見通しをもとう〉 1. 単元扉の単元名と教材名、いざないの言葉などから、学習の見通しをもつ。 2. 同じできごとの話を聞いたのに、人によって別のできごとのようにだと感じた経験について、伝え合う。 3. 図形の事例やその説明を読み、「事例」と「解説」の意味を理解する。 * 異なる見方を同時にできないことについては、図形の事例で実際に確かめると説得力が増す。 4. 筆者の主張についてどう思うか、話し合う。 * 児童の身近な経験と照らし合わせて考えられるとよい。	【知識・技能】 ◎原因と結果など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。(C(1)ア) 【言語活動例】 ・説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめたりする活動。(C(2)ア) 【態度】 ・すすんで事実と感想、意見などとの関係を捉えようとし、学習の見通しをもって、事例と解説に気をつけながら異なる見方や筆者の主張について考えようとしている。
1学期	6月	8 (書く2)	二 事例と解説をもとに筆者の考えを読みとこう 言葉と事実 教科書:P46 □言葉と事実に関する事例と解説をもとに、筆者の考えを読み解くとともに、それに対する自分の考えを書き、事実を捉える際の言葉の働きについて考えを深める。 ★ここが大事:事例と解説 ☆学習用語:事実／事例／主張／解説	読む	1・2	〈たしかめよう〉 5. 「事実」について考え、事例について整理する。 (1)自分たちの経験から「事実」とはどのようなことだと思うか伝え、本文を読んで確認する。 (2)三つの事例から、言葉と事実について、起こったこと、大切なこと・必要なことについて表にまとめる。 * 黒板に提示する表は、次時の学習にも用いるため、模造紙などにまとめると活用しやすい。	【知識・技能】 ◎原因と結果など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) ○「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。(C(1)ア) ◎「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。(C(1)ウ) 【言語活動例】 ・事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。(B(2)ア) ・説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめたりする活動。(C(2)ア) 【態度】 ・事例と解説に気をつけながら粘り強く筆者の論の進め方について捉え、学習の見通しをもって言葉と事実の関係について考えようとしている。
					3・4	〈くわしくよう〉 6. 整理した表をもとに、三つの事例のつながりについて考え、筆者が事例と解説をとおして「言葉」と「事実」がどのような関係にあると述べているか、話し合う。 * 事例1はうそつき少年の話、事例2は学級新聞、事例3はアメリカのデパートである。事例のあとには解説が書かれていることに気づかせたい。	【言語活動例】 ・事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。(B(2)ア) ・説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめたりする活動。(C(2)ア)
					5・6	〈まとめよう〉 7. 『言葉と事実』を読んで考えたことについて、筆者の主張や身近な事例に気をつけて書く。 * 筆者に共感、納得したところは、本文に線を引くようにするとわかりやすい。	
					7	〈つたえあおう〉 8. 言葉で事実を表すことについての考えを発表し合い、言葉と事実の関係や事例に気をつけながら話し合う。 * 幾つかの活動形態が考えられる。学級の実態に応じて柔軟に対応できるとよい。	
					8	〈ふり返ろう〉 9. 筆者の考えを読み取る活動や、言葉と事実の関係について自分の考えをまとめる活動で、どのようなところに気をつけたのか振り返る。 * 二つの観点が示されているが、「この単位を通してどのような力がついたか」など、実態に応じて発展的に書かせてもよい。	

1学期	6月	2	言葉の広場① 話し言葉と書き言葉 教科書:P56 △話し言葉と書き言葉の特徴の違いについて理解したり、場に応じた言葉の選び方の違いや表現の仕方の違いについて理解したりする。 ☆学習用語:書き言葉／話し言葉	言語	1 1.「話し言葉と書き言葉」について学ぶという学習内容を理解して、学習の見通しをもつ。 * 話し言葉と書き言葉の違いについて考え、それぞれの特徴を理解して日常の言語生活でも注意していこうとする学習の見通しをもたせる。 * P56の「インタビューの会話」と「学校新聞の記事」だけを見せて、話し言葉と書き言葉ではどのような点が違っているかを発表させる。 2. 話し言葉と書き言葉を比べて、それぞれの特徴や性質の違いなどについて確かめる。 * なぜ、話し言葉と書き言葉では、表現に違いが出るのかを考えさせる。 2 3.「話し言葉のとくちょう」と「書き言葉のとくちょう」を見て、話し言葉と書き言葉の違いを確かめる。 4.「話し言葉のとくちょう」と「書き言葉のとくちょう」としてあげられているものが、実際にどのようなかたちで現れるか、具体的な場面を考えて発表する。 * 教科書に示されている特徴の他にどのようなものがあるか、考えて発表させる。 5. 学習を振り返る。	【知識・技能】 ◎話し言葉と書き言葉との違いに気付いている。((1)イ) 【態度】 ・積極的に話し言葉と書き言葉の違いを理解し、学習課題にそって自身の言語生活を振り返って考えようとしている。
1学期	6月	4 (話す聞く4)	三 伝わるように構成を考えよう すいせんしょう「町じまん」 教科書:P58 ◇相手が納得するように、事実と考え、感想を区別した構成を工夫して、発表する。 ★ここが大事:聞き手がなっとくするような構成で話す ☆学習用語:推薦／課題／聞き手／経験／構成／メモ／理由／結論／ポスター	話聞	1 〈見通しをもとう〉 1. 単元名や教材名から、本単元の目標や活動をつかむ。 (1)聞き手が納得するように、構成を考えて話す力を伸ばすことを確認する。 〈決めよう・集めよう〉 2. 自分が推薦するものを決めて、その特徴について調べる。 (1)自分の住む町の自慢できるものを集める。 (2)自分が推薦したいものを選ぶ。 * 大蔵大根を例に、P59上段に示された観点(よいところ・課題・町とのつながり)を確認する。 (3)自分が推薦するものの特徴について調べ、気づいたことをノートやワークシートにまとめるようにする。 2 〈組み立てよう〉 3. 聞き手が納得するような構成を考え、発表の練習をする。 (1)P59下段に示された構成(始め方、理由の述べ方、終わり方)を例に、どのような工夫をすればよいか考える。 * P60・61の発表モデルと合わせて確認することで、具体的なイメージをもたせるようにする。 * 「ここが大事」を参照する。 (2)発表の練習をする。 * 構成の工夫を意識できるように、小グループで発表の練習を見合うようにする。 3 〈話そう・聞こう〉 4. 発表会を開く。 〈伝え合おう〉 5. 感想を交流する。 * 納得した点と、どうして納得したのか、その理由について交流する。 4 〈ふり返ろう〉 6. 学習の振り返りをする。 * 振り返りを学級全体で共有し、これから相手が納得するためにどんな工夫ができるか話し合うようにする。	【知識・技能】 ◎情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。((2)イ) 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア) ◎「話すこと・聞くこと」において、話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えている。(A(1)イ) 【言語活動例】 ・意見や提案など自分の考えを話したり、それらを聞いたりする活動。(A(2)ア) 【態度】 ・聞き手が納得するように事実と感想、意見とを区別して粘り強く話の構成を考え、学習課題にそって発表しようとしている。

1学期	6月	5 (書く5)	三 伝わるように構成を考えよう 案内やしょうかいのポスター 教科書:P62 ■構成や表現を工夫して、ポスターを作る。 ★ここが大事:相手や目的、内容に合わせた構成を考える ☆学習用語:構成／ポスター／見出し／読み返す／割り付け	書く	1 〈見通しをもとう〉 1.「学習の進め方」を読んで、学習の見通しをもつ。 * 実際に使われているポスターを準備しておき、ポスターのイメージを広げられるようにする。 * 掲示することで多くの人に見てもらえるというポスターのもつ機能を確認し、どんな情報が盛り込まれているのかを整理させる。 〈決めよう・集めよう〉 2. 伝えたい相手や内容を決め、取材する。	【知識・技能】 ◎話し言葉と書き言葉との違いに気付いている。((1)イ) 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。(B(1)イ) 【言語活動例】 ・事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。(B(2)ア) 【態度】 ・すすんでポスター全体の構成や展開を考え、学習の見通しをもって、構成や表現を工夫してポスターを作ろうとしている。
					2 〈組み立てよう〉 3. ポスターの構成を考える。 * どんな目的でポスターを作るかを意識させて、何を書くか考えさせる。 * 割り付け、タイトルなどにどのような工夫をすればよいのか考えさせる。 * 伝えたいことを詳しく書いたり、大きな字で書いたりすることでわかりやすくなることを伝える。 * 図や写真を使ってわかりやすく書くよう助言する。	
					3・4 〈書こう〉 4. 表現を工夫して、ポスターを作る。 〈読み返そう〉 5. 読む人に伝わりやすいポスターになっているか、読み返す。	
					5 〈伝え合おう〉 6. ポスターを読み合い、感想を伝え合う。 * ポスターを実際に飾り、見た人から感想をもらう。見る人に明確に目的や意図が伝わる構成や表現になっているか、よりよい表現にするための助言をし合うようにさせたい。 〈ふり返ろう〉 7. 構成や表現をどのように工夫して、ポスターを作ったか振り返る。	
1学期	7月	3 (書く1)	言葉の文化① 漢文に親しむ 教科書:P66 △現代の言葉とは異なる漢文のリズムや響きを読み味わう。 ☆学習用語:漢文／漢詩	文化	1 1.『春暁』の情景を思い浮かべ、リズムを感じながら音読する。 (1) 白文を見て、漢字をもとに作品内容を想像し、感じたことを話し合う。 (2) 書き下し文を大意とあわせて読み、作品世界をより鮮明に想像する。 (3) 書き下し文を繰り返し音読し、そのリズムと響きを感じ取らせる。 2.『春暁』を読んだ感想を書き、共有する。	【知識・技能】 ◎文章を音読したり朗読したりしている。((1)ケ) ◎親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。((3)ア) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)
					2 3.『静夜思』の情景を思い浮かべ、リズムを感じながら音読する。 (1) 繰り返し音読し、読み方を確認する。 (2) 大意を参考にしながら、情景や意味を考える。 4.『静夜思』を読んだ感想を書き、共有する。	【言語活動例】 ・事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。(B(2)ア) 【態度】 ・積極的に現代の言葉とは異なる漢文のリズムや響きを理解し、今までの学習を生かして漢文を読み味わいながら音読しようとしている。
					3 5.『論語』と『大学』にこめられた昔の人のものの見方や感じ方を考え、音読する。 (1)繰り返し音読し、そのリズムと響きを感じ取る。 (2) 昔の人のものの見方や感じ方に関心をもち、自分たちのものの見方や感じ方と比べる。 6.『論語』『大学』を読んだ感想を書き、共有する。 * 「見る・視る」「聞く・聴く」など、中国から来た漢字としての使い方に気づかせ、日本の文化にも生きていることにふれてもよい。 7. 学習を振り返る。	
1学期	7月	2	言葉の広場② 敬語 教科書:P70 △敬語のはたらきと種類を理解して、正しく使う。 ☆学習用語:敬語／謙譲語／尊敬語／丁寧語	言語	1 1. 冒頭の電話のやりとりをとおして、相手による言葉づかいの違いに気づく。 * 弟からの電話に出る場合と担任の先生からの電話に出る場合とでは、言葉づかいが異なることに気づかせ、その違いを具体的にあげさせる。 2. 敬語のはたらきについて理解する。 * 「うやまう」「敬意を表す」とはどのようなことか、児童にもよくわかるように言いかえるなどして説明する。 3. 敬語がどのような場面で使われているか理解する。 * 敬語が使われる場面としてどのようなものがあるか考えさせるとともに、教科書を読んで、敬語がどのような場面で使われるかを確認する。	【知識・技能】 ◎日常よく使われる敬語を理解し使い慣れている。((1)キ) 【態度】 ・積極的に日常よく使われる敬語を理解し、今までの学習を生かして、敬語を使う場面や使い方に関心をもち正しく使おうとしている。
					2 4. 尊敬語・謙譲語・丁寧語について、そのはたらきと語句を理解する。 * 例をあげながら、尊敬語・謙譲語・丁寧語それぞれのはたらきをノートにまとめさせる。 * ノートに書く分量を抑えるためにも、語例はあとの設問に関わるもののみあげる。 5. P73の設問1・2の問題に取り組む。 * 答えを確認するだけでなく、そのように書き改める理由も発表させ、使用場面と敬語の種類、正しい表現を確認していく。 6. 学習したことを振り返る。	

1学期	7月	1	漢字の広場② 複合語 教科書:P74 △複合語の構成や変化、由来などについて理解を深める。 ☆学習用語:複合語	漢字	1	1. 学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 2. 二つ以上の言葉が組み合わさってできた複合語について、そのでき方と読み方を理解する。 3. 「書く」「走る」「見る」+「始める」をもとに複合語を作る。 4. 動きを表す言葉が組み合わさってできた複合語をもとの言葉に分け、構成について話し合う。 5. 複合語の言葉集めをし、短文を作る。 6. 動きを表す言葉以外にも、複合語があることを知る。 7. いろいろな組み合わせ方を知り、語形や音が変化する場面があることを確かめる。 8. 二つの言葉が組み合わさるとき、あとの言葉の最初の音が濁音になることを確かめる。	【知識・技能】 ◎思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1)オ) 【態度】 ・積極的に複合語の組み合わせ方について理解し、学習の見通しをもって、複合語について言葉集めをしようとしている。
1学期	7月	1 (書く1)	四年生で学んだ漢字② 教科書:P76 △絵を見て想像したことをもとに、4年生で学んだ漢字などを使って文を書く。	漢字	2	9. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 * P76の絵を拡大して黒板に貼っておくと、指導する事柄を学級全体に示しやすくなる。 10. 四年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 * 読み手が理解しやすいように伝えたいこと、知らせたいことを明確にして書くようはたらきかける。 11. 作った文を互いに発表し合う。 * 互いのよいところを発表し合うとよい。 12. 学習したことを振り返る。	【知識・技能】 ◎前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(1)エ) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。(B(1)イ) 【言語活動例】 ・事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。(B(2)ア) 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題にそって、教科書の絵を説明する文を書こうとしている。
1学期	7月	1	読書の広場① 図書館を活用しよう 教科書:P77 △図書館にある資料や情報の特徴を知り、目的に応じて情報の集め方を使い分ける。	読書	1	1. 図書館にある資料・情報の特徴を知り、情報収集のための活用方法を考える。 2. 学校図書館や地域の図書館に整備されている資料を探し、発表する。 * 本以外にもさまざまな種類の資料があることに気づかせる。 3. 資料を使って調べる。 * 調べる事柄は複数用意し、分担させる。 * 何を使って調べたか、選んだ理由を考えさせる。 4. 本、新聞、ウェブサイトの特徴を話し合う。 * それぞれのメリット、デメリットを考えさせる。 * P79を読み、インターネットでの検索について理解させる。 5. 学習を振り返る。 * 資料それぞれの特徴を理解したうえで、目的に応じて使い分けること、複数の資料を利用することを確認する。	【知識・技能】 ◎日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付いている。(3)オ) 【思考・判断・表現】 ○「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。(C(1)ウ) 【言語活動例】 ・学校図書館などを利用し、複数の本や新聞などを活用して、調べたり考えたりしたことを報告する活動。(C(2)ウ) 【態度】 すすんで図書館にある資料・情報の特徴を知ろうとし、これまでの学習を生かして目的に応じて使い分けようとしている。
1学期	7月	1	読書の広場② ひろがる読書の世界 教科書:P80 △本についての話し合いや、おすすめの本のスピーチをする活動をととして、日常的に読書に親しむ。	読書	1	1. 読書生活を振り返り、「おすすめ本」をスピーチしたり、これからの読書生活を考えたりする。 (1)読書生活を振り返る。 * 五年生になってから読んだ本について、冊数や本のジャンルに目を向けさせ、自分の読書傾向を把握させる。 (2)「おすすめ本」のスピーチをする。 * 事前に活動を知らせ、本を用意させておいてもよい。 * 相手が読みたくなるような内容を考えさせる。取り上げるとよいことを例示する。 * 聞いたあとには、質問したり感想を伝えたりさせる。紹介された本を知るだけでなく、友達の読書の取り組み方を知る機会にしたい。 (3)今後の読書計画を立てる。 * 自分の読書傾向から、冊数やページ数、読書時間のもち方など取り組み方を考えさせ、読みたい本、ジャンルなどを決めさせる。	【知識・技能】 ◎日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付いている。(3)オ) 【思考・判断・表現】 ○「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ) 【言語活動例】 ・詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。(C(2)イ) 【態度】 ・すすんで読書に親しみ、学習課題にそって読書生活を振り返り、「おすすめ本」をスピーチしたり、これからの読書生活を考えたりしようとしている。

2学期	9月	2 (話す聞く2)	意図をもって話を聞き、考えたことをまとめよう 「対話」というやりとり 教科書:P82 ◇自分が聞きたいことは何か、意図をもって話を聞き、自分が考えたことをまとめる。	話聞	1	〈見通しをもとう〉 1. 教材名やリード文から、本教材の目標や活動をつかむ。 * 二人組で、尋ねたいことを決めて話を聞き合い、聞いたことをもとに自分の考えをまとめて発表することを確認する。 2. 相手にききたいことを決め、インタビューの準備をする。 * P84の学習モデルを確認し、インタビューの方法を確かめる。 3. テーマを決めて、話を聞く。 * 聞き取りメモを取りながら、話を聞くように助言する。 4. 聞いたことをもとに、自分の考えをまとめて発表する。	【知識・技能】 ◎情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解使っている。((2)イ) 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。(A(1)エ) 【言語活動例】 ・インタビューなどをして必要な情報を集めたり、それらを発表したりする活動。(A(2)イ) 【態度】 ・すすんで自分が聞きたいことは何かをはっきりさせて相手の話を聞き、学習課題にそって自分の考えをまとめようとしている。
2学期	9月	2	詩を読もう 素朴な琴／鳴く虫／山のあなた 教科書:P86 口文語詩を含むさまざまな作品を読みながら、イメージの広がりを読み味わう。 ☆学習用語: 仮名遣い／歴史的仮名遣い	読む	1・2	1. 『素朴な琴』を音読する。 * どの詩においても、歴史的仮名遣いについて深くふれる必要はない。滑らかに読めるように繰り返し音読させるようにする。 * 琴がしずかに鳴り始める情景を、「あかるさ」「秋の美しさ」などから見えてきたり、聞こえてきたりする様子から想像させる。 2. どのような音が響いてくるか話し合う。 * 「ひとつの素朴な琴」とは、どのような「琴」か、思いや考えから生まれた抽象的な「琴」か、それによって「音」の響きも異なってくるだろう。 3. 『鳴く虫』を音読する。 4. 虫の音を作者が何にたとえているか話し合う。 * どんな虫の音がどんな宝石によって生まれるのか想像させる。 * ダイヤモンドを磨くなら、どんな音がするだろうか。サファイアなら、ルビーなら……。聴覚的なイメージが広がる。 * 磨かれたそれらの宝石は、どのような「ひかり」を出すだろうか。視覚的なイメージも広がる。 * 虫の音色と「方々の草かげがほんのりあかるい」夜の情景を想像して伝え合い、様子が伝わるように音読させる。 5. 『山のあなた』を音読する。 * 歴史的仮名遣いに気をつけ、七五調のリズムを味わいながら音読させる。 6. 「空遠く」「なほ遠く」の違いを考え、「幸」の意味について話し合う。 * 「群読」を取り入れて、人数を行ごとに変えて読むとよい。 7. 三つの詩のうち、いちばん好きな詩を選び、暗唱する。	【知識・技能】 ◎比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。((1)ク) ◎文章を音読したり朗読したりしている。((1)ケ) ◎親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。((3)ア) 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C(1)エ) 【言語活動例】 ・詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。(C(2)イ) 【態度】 ・すすんで言葉の響きやリズムに親しみ、学習の見通しをもって詩の世界を楽しもうとしている。

2学期	9月	8 (書く2)	四 物語のやま場を見つけ、読みを深めよう 大造じいさんとがん 教科書:P90 □残雪に対する大造じいさんの心情の変化を読み、「やま場」の場面を見つけたり、大造じいさんの行動に対しての考えを書いたりする。 ★ここが大事:「やま場」を考える ☆学習用語:情景描写／発表／やま場／気持ち／話し手／人物像／性格／中心人物／物語の基本構造	読む	1 2・3 4 5 6 7 8	〈見通しをもとう〉 1. 単元扉を読んで、学習の見通しをもつ。 * 大造じいさんの心情の変化を考えながら読み、「やま場」の場面を見つけ、読みを深めるという単元の見通しをもてるようにする。 * 登場人物と作品全体で流れる時間について、目を向けられるようにする。 〈たしかめよう〉 2. 大造じいさんの残雪に対する心情の変化を考える。 (1)大造じいさんは、がんを捕らえるために、どのような作戦を立てたかを読み取り、その時の心情とともに、表に整理する。 * 心情を捉えるとともに、なぜそのような心情にいたったのかについても考えられるようにする。 * 一つの場面でも、残雪の動きによって、大造じいさんの心情が移り変わることもある。大造じいさんの性格や、前後の状況を踏まえて具体的に想像するようにさせる。 * P108「言葉」を確認し、情景描写に大造じいさんのどのような心情が表現されているか考えられるようにする。 (2)大造じいさんが残雪に対してもっていた思いは、どのようなもので、どの場面でどのように変わっていったのか理由とともに話し合う。 * 冒頭部に残雪のことや、大造じいさんの残雪への見方が書かれている。物語の前提としておさえておくとい。 * 『いつか、大切なところ』で学習したことを生かし、心情を読み取れるようにする。 〈くわしくよう〉 3. この物語の「やま場」はどこか。そこだと思った理由をノートにまとめ、発表し合う。 * やま場は、中心人物が大きく変わる場所である。また、読み手がこの物語のどこに感動したか、どのような事柄が心に残ったのかの根拠となることが多い「場」でもある。 * 理由をノートにまとめるのは、「やま場」に対する自分なりの根拠をはっきりさせることがねらいである。 * 「やま場」は一か所とはかぎらない。読み手によって異なる。ここではそれを話し合うこと、交流し合うことが大切である。学級で一つにまとめることが目的ではない。 〈まとめよう〉 4. 心に残った場面を選び、選んだ理由や自分の考えをまとめる。 * 大造じいさんの心情や、心情の変化を振り返り、考えをもてるようにする。 〈つたえあおう〉 5. 心に残った場面についてまとめたものを伝え合う。 * 互いの考えの違いに着目したり、よいところを認め合ったりして、考えを広げる。 〈ふり返ろう〉 6. 学習を振り返る。	【知識・技能】 ◎思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1)オ) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)◎「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C(1)エ) 【言語活動例】 ・詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。(C(2)イ) 【態度】 ・すすんで残雪に対する大造じいさんの心情の変化を読み、学習の見通しをもって「やま場」の場面を見つけたり、大造じいさんの行動について考えたりしたことを文章にまとめようとしている。
2学期	9月	1 (書く1)	言葉の文化② 鳥 教科書:P110 △「鳥」を扱った言語表現を集める。	文化	1	1. 教科書の文章から「鳥」を扱った表現や歌を知り、声に出して読む。 * 「鳥」を使用した言語表現の多様さに気がつかせる。また、短歌・俳句や童謡を音読して、文語のリズムに親しませる。 2. 「鳥」に関する歌や言葉を、辞典などを使って調べて、ノートに書く。 * どういう種類の辞典や参考書を見ればよいのかを考えさせる。 3. 集めた「鳥」に関する歌や言葉から、感じたり考えたりしたことをノートに書き、友達と読み合う。	【知識・技能】 ○古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知っている。(3)イ) 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【言語活動例】 ・事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。(B(2)ア) 【態度】 ・粘り強く「鳥」を扱った言語表現を集めようとし、学習の見通しをもって感じたり考えたりしたことについて文章に書こうとしている。

2学期	10月	4 (書く4)	言葉を選んで、ゆたかに表現しよう 俳句・短歌のリズムにのせて 教科書:P112 ■季語や自分の気持ちや様子を表す言葉を選び、俳句や短歌を作る。 ★ここが大事:俳句・短歌を作る ☆学習用語:季語／俳句／短歌	書く	1	〈見通しをもとう〉 1. 教科書に載っている俳句・短歌について感じたことや表現の工夫について考え、学習の見通しをもつ。 2. 俳句にするできごとを決め、そこから連想する言葉を集める。 * マッピング(ウェビング)などを用いて、イメージを広げていくようにさせる。	【知識・技能】 ○思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。((1)オ) 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【言語活動例】 ・短歌や俳句をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B(2)イ) 【態度】 ・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識し、学習の見通しをもってすすんで俳句をつくろうとしている。
					2	3. 音に合う言葉を選び、俳句を作る。 * 教科書に書かれている俳句や短歌の作り方を参考にして作らせる。一つに限らず、気軽に複数作るよう助言する。 * 季語は歳時記などを参考にさせるが、厳密にそれに従う必要はない。児童の日常感覚を大切にしたい。 * 「楽しい」「悲しい」のような心情を直接的に表す言葉を使っている児童には、その時の情景や表情などを思い浮かべさせ、違う言葉に置きかえるように支援する。 * ぴったりとくる言葉が選びにくいときには、辞典を引き類語を調べるなどして、言葉を置きかえさせるとよい。	
					3	4. 短歌を作る。 (1)心を動かされた情景やできごとを思い浮かべる。 (2)「五・七・五・七・七」の音に合う言葉を選ぶ。 (3)作った短歌のリズムや響きを確認める。	
					4	5. 作品を読み合い、感想を伝え合う。 * 作品の感想を伝えるときは、言葉の選び方や、リズム、作品から想像されるイメージなどから、具体的なよさを言葉にして表すようにさせる。 〈ふり返ろう〉 6. どんな工夫をして、俳句や短歌を作ったかを振り返る。	
2学期	10月	6 (話す聞く6)	五 立場を明確にして話し合おう ミニディベート—AIとのくらし 教科書:P116 ◇自分の立場を明確にして、計画的に話し合い、自分の考えを広げる。 ★ここが大事:考えを広げるために話し合う ☆学習用語:ミニディベート／根拠／出典／引用／利点／反論	話聞	1	〈見通しをもとう〉 1. 単元名や教材名から、本単元の目標や活動をつかむ。 * あるテーマに対して、自分の立場を明確にして、話し合うことを確認する。 * 「ミニディベート」は、三人組でそれぞれ役割を決めて話し合うものであることを確認する。	【知識・技能】 ◎原因と結果など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。(A(1)オ) 【言語活動例】 ・それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動。(A(2)ウ) 【態度】 ・すすんでテーマについて自分の立場を明確にし、学習課題にそって計画的に話し合い、自分の考えを広げようとしている。
					2・3	〈決めよう・集めよう〉 2. テーマを決めて、調べる。 (1)自分の学級で話し合うテーマを決める。 * 「情報ノート」から関心のあるテーマを見いだしたり、考えたいテーマについてアンケートをとったりして、それをもとに決めるようにする。 * テーマは学級全体の共通テーマでも、グループごとのテーマでもよい。学級の児童の実態に合わせて設定する。 (2)利点や問題点について調べる。 * さまざまな視点で考えられるように、聞き取り調査やインタビューを行った。複数の資料をもとに調べたりするようにする。そのために必要な時間を確保する。 〈組み立てよう〉 3. 話し合いの準備をする。 * 集めた情報をもとに、利点と問題点の両方の立場から、意見や予想される質問・反論と、それに対する答えを考えさせる。	
					4・5	〈話そう・聞こう〉 4. 「ミニディベート」を行う。 (1)P119・120の学習モデルを参照し、「ミニディベート」の流れを確認する。 (2)「ミニディベート」を行う。 (3)使った資料と、「ミニディベート」を通して自分が思ったり感じたりしたことをノートにまとめる。 * 「情報ノート」を活用してもよい。	
					6	〈伝え合おう〉 5. 感想を交流する。 (1)前時にまとめたノートを振り返る。 (2)感想を交流する。 * 感想の交流は次の観点で行う。 ・ 立場を明確にして話し合う「ミニディベート」という活動についての感想。 ・ テーマに対しての自分の考えの広がりや深まりについての感想。 〈ふり返ろう〉 6. 学習の振り返りをする。 (1)「ミニディベート」で話し合うとき、どんなことに気をつけて取り組んだか振り返る。 (2)「ここが大事」を読み、学んだことについて確認する。	
2学期	10月	1	漢字の広場③ 熟語の構成 教科書:P122 △二字熟語の構成や由来について理解を深める。 ☆学習用語:熟語の構成	漢字	1	1. 学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 2. 「読」「書」という二つの漢字の意味を手がかりに、「読書」という熟語の意味を考える。 3. P122下段1の熟語について読み方を確かめ、意味を推測し、話し合う。 4. 二字熟語の構成のタイプを五つに分けて、理解する。 * それぞれの熟語の構成と意味を推測する。 5. P123下段2の熟語について、構成を考え、辞典で意味を調べる。自分が推測した意味と比べながら熟語の意味を確認する。 * 推測した意味と辞典に書かれている意味とを比べる。	【知識・技能】 ◎思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。((1)オ) 【態度】 ・すすんで二字熟語の構成や由来について理解を深め、学習の見通しをもって熟語の構成をもとに意味を考えたり、辞典を使って調べたりしようとしている。

2学期	10月	1 (書く1)	四年生で学んだ漢字③ 教科書:P124 △絵を見て想像したことをもとに、4年生で学んだ漢字などを使って文を書く。	漢字	2	6. 教科書の絵を見て、描かれているものについて説明する。 * 教科書の絵を拡大して黒板に貼っておくと、指導する事柄を学級全体に示しやすくなる。 * 絵の中の都道府県について知っていることを発表できるようにする。 7. 四年生までに学んだ漢字を使って、絵に描かれている都道府県名を使った文を書く。 * 条件をつけて文を書くよう促すと、記述の仕方に工夫が見られるようになる。 8. 書いた文を見直し、適切な表現に変えたり、まちがいを正したりして、発表し合う。 * 表現を改めたり、書きまちがいを正したりして、書いた文を発表させる。 * 初めに書いた文と推敲した後の文を比べ、書き直してどこがよくなったかを互いに指摘し合うとよい。 9. 学習したことを振り返る。	【知識・技能】 ◎前学年や当該学年で担当されている漢字を文や文章の中で使っている。((1)エ) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B(1)オ) 【言語活動例】 ・事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。(B(2)ア) 【態度】 ・すすんで前学年や当該学年で担当されている漢字を使い、学習課題にそって、教科書の絵を説明する文を書こうとしている。
2学期	10月	1	言葉の広場③ 方言と共通語 教科書:P126 △方言と共通語について理解し、相手や場面に応じて適切に使い分ける。 ☆学習用語: 方言／共通語	言語	1	1. 冒頭のやりとりと図から、「ありがとう」という意味の言葉は、日本各地にいろいろな言い方があることを知り、学習の見通しをもつ。 * 冒頭のやりとりや図を確認し、方言について調べてみたいという意欲をもたせる。 2. 教科書を読み、方言と共通語について理解する。 3. 共通語で使われる意味とは違う意味で使われる方言を調べる。 * 「自分たちの住んでいる地域の方言を調べる」「あいさつの方言を調べる」など、条件をつけるとよい。 4. 教科書を読み、言葉にはアクセントがあることに気づく。 * 教科書の例の「かき」を実際に声に出して確認する。 5. 地域によってアクセントの位置が違う言葉を調べる。 * タブレット端末などで調べ、実際に声に出してみるとよい。 6. 学習したことを振り返る。	【知識・技能】 ◎語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解している。((3)ウ) 【態度】 ・すすんで方言と共通語について理解し、学習課題にそって相手や場面に応じて適切に使い分けようとしている。
2	10月	1 (話す聞く1)	ひろがる言葉 つながる ひろがる 教科書:P128 ◇上巻の国語学習を振り返ったり、これからの学習について考えたりして、計画的に学習できるようにする。	話聞	1	1. 半年間の国語の学習で学んできたことや言葉を思い出して書いたり、出し合ったりする。 * 上巻の教科書、学習のノート、作成物、プリント類(ポートフォリオ)などをあわせて振り返ることができるようにする。教科書P4『五年生で学ぶこと』や挿絵やふきだしを参照させる。楽しかったことを中心に思い出させたい。 * 心に残っている単元や教材、学習活動、言葉などを具体的にメモし、発表し合う。 * 友達の発表を聞き、学んできたことを共有できるようにする。 2. 出し合ったことが、他の教科や生活の中で、どんなことに生かしていけるか考える。 * 国語の学習が日常生活のさまざまな場面で生かされることに気づけるようにする。	【知識・技能】 ○話の構成や展開、話の種類とその特徴について理解している。((1)カ) 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア) ○「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【言語活動例】 ・意見や提案など自分の考えを話したり、それらを聞いたりする活動。(A(2)ア) ・それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う。(A(2)ウ) 【態度】 ・積極的に上巻の教科書での国語学習を振り返ったり、これからの学習について考えたりして、今までの学習を生かして計画的に学習しようとしている。

2学期	10月	10 (書く5)	一 根拠となる資料にもとづいて考えを深め、自分の意見を書こう 世界遺産 白神山地からの提言——意見文を書こう 教科書:P8 ■多様な文章や資料を比べながら読み、自分の考えを深め、その考えが伝わるように根拠を明確にして意見文を書く。 ★ここが大事:意見文を書く ☆学習用語:意見文／課題／資料／根拠／引用する／主張／反論／事例／出典	読む・書く	1 〈見通しをもとう〉 1. 単元名といざないの文を読み、自然保護に対する自分の意見を交流し、それぞれの考えを意見文に書くという学習の見通しをもつ。 * 意見文を読んでもらう相手を明確にする。 * 本単元は、読む活動と書く活動が融合している。P8の「学習の進め方」をもとに、どのように活動を進めるのかを確認し、児童が見通しをもてるようにする。 2・3 2. 白神山地について知る。 (1)「ブナの森が支える豊かな自然」を読み、白神山地が世界遺産に登録された経緯や、白神山地がつくり出す計り知れない恵みについて理解する。 (2) P11の白神山地に生息する貴重な生き物について知り、白神山地の価値がブナ林だけでないことに気づく。 * 白神山地や貴重な世界遺産を守っていくために、自分には何ができるのかという視点に立って考え、それを支える根拠を資料から見つけ出すようにする。 4～6 3. 多様な資料から白神山地の現状や課題を捉え、自然保護についての自分の考えをまとめる。 (1) 資料1～7を読み、白神山地の状況と白神山地に関わる人々のさまざまな考え方について理解する。 * 資料1から、核心地域と緩衝地域のそれぞれの役割や考え方をおさえる。また、入山届出書や新聞記事、インタビューなどの多様な資料から、自然保護について異なる視点で考えるようにする。 (2) 斎藤さんの文章や資料1～7をもとに、それぞれの資料から白神山地についてわかることをワークシートに書き出す。 (3)資料からわかったことから、自然保護についての自分の考えとその根拠(もとになる資料)をノートに書く。 7・8 4. 友達と考えを交流し、自分の考えを深める。 * ノートにまとめた自分の考えをワークシート(メモ)に書いて出し合い、交流を進めるようにする。 * それぞれの考えや取り上げている根拠について、質問し合ったり、考えを述べ合ったりできるように示す。 * 友達の考えで参考にしたいところや、自分の考えが変化したところ、新たに考えたことなどを、ワークシート(メモ)に書きたすようにする。 9・10 5. 自分の考えをまとめ、意見文を書く。 * ワークシート(メモ)をもとに意見文を書くようにする。 * 自分の考えのもとになった文や言葉に線を引き、意見文を書くときに活用できるようにする。 * P20・21の「ここが大事」と文例をもとに、意見文に書く内容と構成を捉えることができるようにする。 * P21「必要な情報を引用する」を読み、説得力のある意見文にするための引用の仕方について確認する。 〈ふり返ろう〉 6. 学習活動を振り返る。	【知識・技能】 ◎原因と結果など情報と情報との関係について理解している。(I2)ア) 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B1)ウ) ◎「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C1)オ) ◎「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C1)カ) 【言語活動例】 ・事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。(B2)ア) ・説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめたりする活動。(C2)ア) 【態度】 ・粘り強く多様な文章や資料を読み比べて自分の考えをまとめ、学習の見通しをもって意見文を書き、友達と交流しようとしている。
2学期	11月	4 (書く1)	言葉の文化③ 「古典」を楽しむ／日本の伝統芸能 教科書:P22 △昔から読み継がれている物語を読み、感想を書く。 ☆学習用語:古典	文化	1・2 1. 教材を読み、学習の見通しをもつ。 2. 『竹取物語』『平家物語』『伊曾保物語』にふれて、その文章の一部を音読する。 * 物語に寄せる、それぞれの時代の人々のものの見方や感じ方などを考えながら読むようにさせる。 3 3. 古典にふれた感想を文章にまとめる。 * P27を読み、感想文のイメージをつかませてから書かせる。 4. 友達の書いた感想を読み、交流する。 4 5. 日本の伝統芸能にふれ、演劇や絵本、漫画や映画など、多様な表現に生きている古典を集めたり読んだりする。 * 現代でも古典に材を取った多様な作品があることに気づかせ、情報を集めさせたり、紹介し合ったりさせる。 6. P148『狂言 附子』を読み合う。	【知識・技能】 ◎古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知っている。(I3)イ) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B1)ウ) 【言語活動例】 ・事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。(B2)ア) 【態度】 ・すすんで昔から読み継がれている物語を読み、学習の見通しをもって「古典」を読んだ感想をまとめようとしている。
2学期	11月	2	言葉の広場④ かなづかいで気をつけること 教科書:P30 △仮名遣いのきまりを理解して、文を正しく書く。 ☆学習用語:仮名遣い／仮名／漢字／平仮名	言語	1 1. 学習内容を理解し、日常化への見通しをもつ。 * 教材冒頭の吹き出しによって、日常の言語生活との関連を意識づける。 2. 「みずうみ」と「みかづき」の例文を読み、どの文字を入れたらよいか話し合う。 * 例文から、仮名遣いは、全て発音どおりに書けばよいということではないことに気づかせ、仮名遣いのきまりを学ぶことの必要性を感じさせる。 3. 仮名遣いのきまりを理解する。 * (1)～(5)に観点にそって、仮名遣いのきまりを確認していくようにさせる。 * 仮名遣いの原則の例外の用例を知り、習熟させるようにする。 2 4. 仮名遣いのきまりに気をつけて、問題を解く。 * 仮名遣いのきまりの分類を思いうかべながら、どういう理由でその仮名遣いになるのか、発表しながら答えさせることで、より理解を深める。 5. ワークシートの問題を解き、定着を図る。 6. 学習したことを振り返る。	【知識・技能】 ◎文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書いている。(I1)ウ) 【態度】 ・積極的に仮名遣いのきまりを理解し、学習課題にそって、文を正しく書こうとしている。

2学期	11月	1	漢字の広場④ 漢字の成り立ち 教科書:P32 △漢字の成り立ちについて関心を深める。 ☆学習用語:象形文字/指事文字/会意文字/形声文字	漢字	1	1. 学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 * 漢字の成り立ちについて理解するという学習課題を確かめ、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。 * 「字形」のみに目が向きがちとなるが、取り上げられた文字について、熟語を集め、それらを参考にしながら、「意味」や「字音」にも着目できるようにしたい。 2. 漢字の四つの成り立ちの種類について知る。 * 単体の漢字である象形文字と指事文字については、漢字のでき方がどのように発想されているかについてふれることをとおして考える程度でよい。 * 辞典によっては、成り立ちの解説で、象形・指事などの用語を使っていない場合がある。また、辞典によって成り立ちの解説が異なる場合があるので、注意する。 3. 象形文字について理解し、設問1に取り組み、ノートにまとめる。 * 象形文字には、その文字がそのまま部首になっているものが多い。 4. 指事文字について理解し、設問2に取り組み、ノートにまとめる。 5. 会意文字について理解し、設問3に取り組み、ノートにまとめる。 * 「人＋立→位」という造字の方法を理解するとともに、「位→人＋立」と漢字を分解して、意味を考える解字の習慣が身につくようにさせる。 6. 形声文字について理解し、ノートにまとめる。 * 形声文字の数は、漢字の八十%を占めるほど多い。造字の方法の理解とともに、解字の習慣を身につけることによって、未習の漢字の意味や読み方を推測できる可能性が広がることが理解できるようになるとよい。 7. 漢字辞典を利用して、形声文字の意味を表す部分(部首)と、音を表す部分を確認する。 * 一つ一つの漢字の字源を明らかにし、覚えることをねらいとするのではなく、複数の構成要素を組み合わせることによって新しい漢字をつくってきた漢字の特性に興味・関心が向くようにしたい。 * 「音を表す部分」が共通する漢字を、関連づけて整理できるとよい。	【知識・技能】 ◎語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解している。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。(3ウ) 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見通しをもって漢字の成り立ちについて関心を深め、漢字事典で調べようとしている。
2学期	11月	1 (書く1)	四年生で学んだ漢字④ 教科書:P34 △絵を見て想像したことをもとに、4年生で学んだ漢字などを使って文を書く。	漢字	2	8. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 * 描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。 9. 四年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 * 描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。 * 条件をつけて文を書くよう促すと、記述の仕方に工夫が見られるようになる。 10. 書いた文を見直し、適切な表現にかえたり、まちがいを正したりして、発表し合う。 * 表現を改めたり、書きまちがいをなどを正したりして、書いた文を発表する。 * 初めに書いた文と推敲した後の文を比べ、書き直してどこがよかったかを互いに指摘し合うとよい。 11. 学習したことを振り返る。 * 漢字の成り立ちを正しく理解したり、漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	【知識・技能】 ◎前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(1エ) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B(1)オ) 【言語活動例】 ・事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。(B(2)ア) 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題にそって、教科書の絵を説明する文を書こうとしている。

2学期	12月	8 (書く2)	二 表現の効果について、考えを広げよう 雪わたり 教科書:P36 □表現の工夫や登場人物の関わりをとおして、『雪わたり』の魅力を紹介する文章を書く。 ★ここが大事:表現のくふうを読む ☆学習用語:たとえ／情景描写／たとえを用いた表現	読む	1	〈見通しをもとう〉 1. 単元扉を読んで、学習の見通しをもつ。	【知識・技能】 ◎比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。((1)ク) 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C(1)エ) ○「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ) 【言語活動例】 ・詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。(C(2)イ) 【態度】 ・すすんで表現の工夫や登場人物の関わりを読み、学習の見通しをもって『雪わたり』の魅力を紹介する文章を書こうとしている。
					2	〈たしかめよう〉 2. 登場人物とできごとについて確認する。 (1)登場人物の会話や行動をもとに、どんな人物かを考える。	
					3	(2)できごとを確認する。 ＊ 四郎とかん子がきつねに会えた回数や場面を確認させる。 ＊ きつねとの出会いや、きつねに言われたこと、四郎やかん子の行動からできごとを確認させる。	
					4・5	〈くわしくよう〉 3. 表現の工夫を読む。 (1)おもしろいと思う表現の工夫を探す。 ・リズムのある表現 ・たとえを使った情景描写 (2)表現の工夫や効果について考えたことを紹介し合う。	
					6・7	〈まとめよう〉 4. 表現の工夫に着目して、『雪わたり』の魅力を紹介する文章を書く。 ＊ P63下段には、「リズムのある表現」と「たとえを使った表現」について、具体例を挙げて述べられている。 〈つたえあおう〉 5. 紹介文を読み合い、感想を伝え合う。 ＊ 「なるほどと思ったところ」「いいなと思うところ」など、よいところを中心に感想を伝え合わせる。	
2学期	12月	4 (書く2)	読書の広場③ 「図書すいせん会」をしよう 教科書:P66 △印象に残った作品を取り上げ、推薦の仕方を工夫して、「図書すいせん会」を開き、読書の幅を広げ合う。 ☆学習用語:帯紙／ポスター／ポップ／推薦／リーフレット／パンフレット／引用	読書	1	1. 「図書すいせん会」の方法を知り、本の推薦文を書くための見通しをもつ。 (1)「図書すいせん会」の方法を知る。 (2)推薦方法について、工夫しているところを話し合う。 ＊ 本の内容や推薦の言葉を短くまとめ、人をひきつける書きぶりになっていることに気付かせる。 (3)好きな本、推薦したい本について考える。	【知識・技能】 ◎日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付いている。((3)オ) 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ) 【言語活動例】 ・詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。(C(2)イ) ・学校図書館などを利用し、複数の本や新聞などを活用して、調べたり考えたりしたことを報告する活動。(C(2)ウ) 【態度】 ・すすんで本の特徴を捉え、本のよさが伝わるように構成や表現を工夫し、学習課題にそって、推薦文を書こうとしている。
					2	2. 推薦したい本を決め、本の特徴や感想をメモする。 (1)推薦する本を決める。 (2)推薦の内容を話し合う。 ＊ 本の特徴を伝えるためには、あらすじだけでなく、その本の特徴をとらえる必要があることに気づかせる。 (3)本を読み直し、本の特徴や感想をメモする。	
					3	3. 推薦の方法を選び、紹介の仕方を工夫しながら推薦の文章を書く。 (1)推薦の方法を決め、推薦文を書く。 ＊ メモをもとに、伝えたいことを選び、構成や言葉を工夫し、推薦の文章を書かせる。 (2)できあがった作品を展示・掲示する。	
					4	4. 「図書すいせん会」を開き、感想を交流し合う。 (1)作品を読み合い、読んだ感想を記録する。 ＊ 表現形式、推薦の文章、工夫点、読んでみたくなったかなど観点をもって読み合い、よさを見つけさせる。 (2)作品の感想を発表し合う。 (3)「図書すいせん会」の感想や読書に対しての考えをまとめる。	

2学期	12月	3 (話す聞く1)	言葉の広場⑤ 言葉で伝える、心を伝える 教科書:P70 △相手の立場を意識しながら、自分の気持ちを言葉で伝える。	言語	1	1. 友達や家族などとの会話において、言葉がうまく伝わらなかった経験について話し合い、学習の見通しをもつ。 * 教師の経験を提示することで、児童が想起できるようにするとよい。 * うまく伝わった経験についても扱うことで、うまく伝わらなかった経験と相対し、会話に必要な要素に気づけるようにしてもよい。 2. 教科書P70を読んで、二人がけんかをしてしまった理由について考える。 * 会話文や挿絵をもとにして、二人のやり取りの背景を理解できるようにする。 3. 教科書P71を読んで、「昨日の会話」から約束をした際の二人のやり取りを読みとり、約束の仕方について思ったこと(問題点)を交流する。 * 二人の会話から、待ち合わせをした場面における事実を整理することで、どのようなずれが生じたのかを明確にし、問題点に気づけるようにする。 4. 問題点をもとに、二人はどのように約束すればよかったかについて考え、交流する。 * どちらか一人が気をつけるのではなく、互いに気をつけるとよかった点があることに気づけるようにする。	【知識・技能】 ◎言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付いている。((1)ア) ◎原因と結果など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) 【思考・判断・表現】 ○「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。(A(1)オ) 【言語活動例】 ・それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動。(A(2)ウ) 【態度】 ・積極的に、相手とのつながりをつくる言葉のはたらきを意識し、学習の見通しをもって気持ちや考えを伝えようとしている。
					2	5. 教科書P71をもとに、前時の学習を振り返りながら、二人はどのように仲直りをすればよいか話し合う。 * 児童の意見を「相手の立場に立つ」「くわしく伝える」「確認する」という三つのポイントで類型化すると、次の活動につながる。 6. 教科書P72の仲直りの会話文を読み、二人はこれからどのようにしようとしているか確認する。 * 「相手の立場に立つ」「くわしく伝える」「確認する」というポイントを確認する。 7. その他にも、あらかじめ決めておくことよいことについて話し合う。	
					3	8. 教科書P73を読み、二人はどのように伝え合えばよかったのか考える。 * 教科書P73の2の文と会話文をもとにして、二人のやり取りの状況やそれぞれの立場について整理し、理解できるようにする。 9. 二人のやり取りに対し、第三者の立場から客観的にみて、どのような助言をするとよいか考える。 * 前の活動を受け、どちらかの立場で改善点を導くのではなく、第三者の立場で客観的に物事を見て、助言を考えられるようにする。 * 意見交流をとおしてよりよいものを考える。 10. 学習したことを振り返り、日常化への見通しをもつ。	
3学期	1月	1	詩を読もう 雪／はたはたのうた 教科書:P74 □さまざまな昔の作品を読みながら、詩の世界を味わう。 ☆学習用語: 黙読／情景	読む	1	1. 『雪』の範読を聞いて、詩の世界のイメージをもつ。 2. 『雪』を読み、描かれた情景について話し合う。 * 浮かんでくる情景について、ペア→グループ→全体という順番で感想交流をする。 3. 話し合いで出てきた着眼点をもとに想像を広げ、作品の世界を味わう。 4. 情景が聞き手に伝わるように声量や間、声の調子を工夫して音読する。 5. 『はたはたのうた』を音読して、「はたはた」という魚のイメージを話し合う。 * 「はたはた」がどんな魚かを、「すがた」「とれる日のしるし」「ごちそう」「母」などの言葉からイメージさせる。 6. 題名の「うた」に着目し、「はたはた」の繰り返しからどんな思いの「うた」であるかを想像し合う。 * 「はたはた」への思いを「うた」と題して表した作者の思いを想像させる。 7. 「うた」の思いが表れるよう、工夫して音読する。	【知識・技能】 ◎比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。((1)ク) ◎文章を音読したり朗読したりしている。((1)ケ) ◎親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。((3)ア) 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C(1)エ) 【言語活動例】 ・詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。(C(2)イ) 【態度】 ・すすんで文語調の作品を読み、学習の見通しをもって、詩の世界を味わおうとしている。

3学期	1月	6 (書く6)	三 事実と意見を結びつけて書こう 生活をよりよくする提案 教科書:P76 ■身のまわりの生活から課題を見つけ、事実と意見を結びつけて提案文を書く。 ★ここが大事:提案文を書く／すいこうする ☆学習用語:提案文／事実／取材／課題／インタビュー／漢字／構成／始め／理由／中／終わり／話題提示／推敲／司書／詩／伝わる／裏づけ	書く	1 〈見通しをもとう〉 1.「学習の進め方」を読んで、活動のイメージを具体的につかみ、学習の見通しをもつ。 * 提案文を読んでもらう相手や、書く目的を明確にし、児童の書くことへの意欲を高める。 〈決めよう・集めよう〉 2. 取材して、提案することがらを決める。 * P76上段やP81を参考に、児童に課題意識をもたせる。誰に、どんなことを伝えたいかを明確にすることで、題材とする場(学校生活・日常生活など)を絞ることができる。 * 「課題」と「改善」の視点に分けて、書きたいことを整理してもよい。付箋を使って整理させる際には、P77上段を参考にするとよい。	【知識・技能】 ◎文の中で の 語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。(1)力 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B1)ウ ◎「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B1)オ ◎「書くこと」において、文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。(B1)カ 【言語活動例】 ・事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。(B2)ア
					2 〈組み立てよう〉 3. 提案文の構成を考える。 * 「始め・中・終わり」とあわせて段落構成も考えることで、伝わりやすい文章になることをおさえる。 * 実際にインタビューなどをして事実に基づいて書かせたり、資料を引用したりするなど、今まで学習してきたことを活用してもよい。	
					3・4 〈書こう〉 4. 読む人に提案したいことが伝わるように書く。 * 前時で作った構成表を見ながら、文章全体の構成を考えて書く。P78・79の文例と注意点を見て、「話題提示」や「提案理由」などを入れることで、読み手にどんな印象を与えるかを確認させてもよい。	
					5 〈読み返そう〉 5. 推敲し、清書する。 * P78の推敲の観点にそって、推敲させる。お互いの下書きを読み合う協同推敲を取り入れるとよい。	
					6 〈伝え合おう〉 6. 提案文を読んだ感想を伝え合う。 〈ふり返ろう〉 7. 学習を振り返る。	
3学期	1月	2	言葉の広場⑥ 和語・漢語・外来語 教科書:P82 △和語・漢語・外来語の由来と特質を理解し、それぞれから受ける印象のちがいについて考えることができる。 ☆学習用語:外来語／漢語／大和言葉／和語／訓読み／音読み	言語	1 1. 日本語には和語・漢語・外来語があることを知り、学習活動に対する見通しをもつ。 * 教材冒頭部を読み、二つの文の違いを指摘させ、和語と漢語から受ける印象が異なることに気づき、なぜ印象が異なるのかを考えようという意欲をもたせる。 2. 和語・漢語の由来と特質について理解する。 * P82・83を読み、和語と漢語の由来と特徴をそれぞれノートにまとめさせる。 3. 外来語の由来の基本について理解する。 * P83を読み、外来語の由来をノートにまとめさせる。 * P83下段の設問に取り組ませ、国語辞典を用いて外来語の出自を調べさせる。	【知識・技能】 ◎語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気づき、共通語と方言との違いを理解している。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。(3)ウ 【態度】 ・積極的に和語・漢語・外来語の由来と特質を理解し、までの学習を生かしてそれぞれから受ける印象の違いについて考えようとしている。
					2 4. 外来語が、諸外国の文化の影響を受けて成り立っていることを理解する。 * P84を読み、外来語の由来と特徴をノートにまとめさせる。 5. 和語・漢語・外来語から受ける印象の違いや使い方の違いなどについて話し合う。 * P84下段の設問に取り組ませ、語感や使い方の違いについて友達どうしで話し合わせる。 * 日常生活の中で気づいた外来語によく似た意味で使われる和語や漢語をあげ、それぞれの感じ方や使い方の違いを話し合い、その表記を使うよさについても意識させる。 6. 学習したことを振り返る。 * 和語・漢語・外来語はそれぞれ由来や特徴が異なっているので、場面や意図に応じて適切に使い分けることが大切であることを理解させる。	
3学期	2月	1	漢字の広場⑤ 同じ音の漢字 教科書:P86 △同音の漢字、同音異義語について理解する。	漢字	1 1. 学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 2. 「強力」と「協力」が、それぞれどんな意味を表しているか、考える。 * 二つの文を声に出して読み、文の意味を考えさせる。 * 二つの語の意味を推測させる。 3. P86下段1に取り組む。 * どちらの熟語を使うことがふさわしいかについて、判断のよりどころとなるものを話し合わせる。 4. P87上段2に取り組む。 * 作った文が、それぞれの言葉の意味に合った使い方をしているかを互いに指摘し合うようにする。 5. P87下段3に取り組む。 * 文脈から、それにふさわしい漢字を選ぶようにすることを意識させる。 * 三つの例題を一度に解くのではなく、一組みずつ、漢字一字一字の意味を確かめながら進める。その際、共通する部分の意味だけでなく、異なる部分(部首)の意味の違いと熟語のつながりに着目させる。	【知識・技能】 ◎文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書いている。(1)ウ 【態度】 ・積極的に同音の漢字、同音異義語について理解し、学習課題にそって同じ音の漢字を正しく使い分けようとしている。

3学期	2月	1 (書く1)	四年生で学んだ漢字⑤ 教科書:P88 △絵を見て想像したことをもとに、4年生で学んだ漢字などを使って文を書く。	漢字	2	6. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 * 絵の中にある四年生で学んだ漢字の読み方を再確認する。 * 絵に描かれたことと、言葉からわかる病院の様子をできるだけたくさん発表できるようにする。 * 描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。 7. 四年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 * 描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。 * 読み手が理解しやすいように伝えたいこと、知らせたいことを明確にして書くようはたらきかける。 8. 作った文を互いに発表し合う。 9. 学習したことを振り返る。	【知識・技能】 ◎前学年や当該学年で担当されている漢字を文や文章の中で使っている。《(1)エ》 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。(B(1)イ) 【言語活動例】 ・事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。(B(2)ア) 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で担当されている漢字を使い、学習課題にそって、教科書の絵を説明する文を書こうとしている。
3学期	2月	5 (書く1)	四 筆者の説明について自分の考えをもとう まんがの方法 教科書:P90 □文章を読んでまんがの表現方法やおもしろさを理解し、まんがに対する自らの考えの変化を文章に表す。 ★ここが大事:絵と文章を対応させて読む ☆学習用語:せりふ／ナレーター／筆者／段落／対応／説明的文章／役割／情報	読む	1・2	〈見通しをもとう〉 1. 単元扉の挿絵や誘いの言葉から、「まんがの方法」について話し合い、自分の考えをまとめていくという学習の見通しをもつ。 * 挿絵の表情の違いから人物の心情が伝わることに気づかせることで、題名の「まんがの方法」と結びつけるとよい。 〈たしかめよう〉 2. 筆者が取り上げた「まんがの方法」と、主張について考える。 (1)「まんがの方法」とその効果について、表を使ってまとめる。 * 読み取りが困難な児童には、挿入されているまんがや絵から方法や効果を確認したり、「方法」「効果」「具体的な例」という順番で書かれていることを伝えたりするとよい。 (2)最後の二つの段落に着目して、筆者の主張について話し合う。 * 第⑩段落の筆者の伝えたいことは、第②段落の問いかけの答えとなっていることに気づかせる。	【知識・技能】 ◎思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。《(1)オ》 ◎情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。《(2)イ》 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) ○「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。(C(1)ウ) ◎「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C(1)オ)
					3	〈くわしくよう〉 3. 「まんがの方法」を紹介するときの筆者の工夫や表現の特徴について話し合う。 * 「方法」「効果」「具体的な例」の順番で書かれた文と、その順番が異なる文の二つを提示し、「方法」「効果」「具体的な例」の順番で書かれた文のよさを見つけるように促す。 * 「～してみましょう。」や「どうでしょうか。」など、読む人に語りかけるような文を入れていることに着目できるようにし、本文のどこに使われているのかを探そう伝える。	【言語活動例】 ・事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。(B(2)ア) ・説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめたりする活動。(C(2)ア) 【態度】 ・学習の見通しをもって、粘り強くまんがの表現方法やおもしろさを捉え、まんがに対する自らの考えの変化を文章に表そうとしている。
					4	〈まとめよう〉 4. まんがに対する考えを、『まんがの方法』を読む前と比べて、具体的な「まんがの方法」を取り上げながら書く。 * 「たしかめよう」でまとめた七つの具体的な「まんがの方法」のうち、いずれかを取り上げて書くように伝える。 * 書くことが困難な児童には、P101下段の女の子の発言を参考にしたり、興味をもった「まんがの方法」がどれであったのかを考えたりするよう促すとよい。	
					5	〈つたえあおう〉 5. 書いた考えを友達と伝え合い、疑問に思ったところなどを質問する。 〈ふり返ろう〉 6. 「まんがの方法」をまとめることによる考えの変化や、考える際に気をつけたことについて振り返る。 * 教科書の「ふり返ろう」の二つの観点にそって、これまでの成果物を見返しながらふり返るとよい。	

3学期	2月	6 (話す聞く6)	五 資料を使って効果的に発表しよう ひみつを調べて発表しよう 教科書:P104 ◇資料を生かした構成を考えて、効果的に発表する。 ★ここが大事:効果的な発表をする ☆学習用語:アンケート／賛成／構成／資料／インターネット／順序／事実／具体例／要点／出典	話聞	1	〈見通しをもとう〉 1. 不思議だと思うことからテーマを選び、調べて発表するという学習の見通しをもつ。 * 資料を効果的に使って発表するという学習の目標についても確認する。	【知識・技能】 ◎情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。((2)イ) 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えている。(A(1)イ) ◎「話すこと・聞くこと」において、資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ) 【言語活動例】 ・インタビューなどをして必要な情報を集めたり、それらを発表したりする活動。(A(2)イ) 【態度】 ・すすんで資料を生かした構成を考えて、今までの学習を生かして効果的に発表しようとしている。
					2・3	〈決めよう・集めよう〉 2. テーマを決め、伝えたいことの中心を考える。 (1)テーマと発表方法を決める。 (2)発表の中心になる柱を決める。 (3)内容にそった資料を集める。 * 調べる方法と発表方法を考えてから資料を集めるようにさせる。 〈組み立てよう〉 (4)柱をもとに発表の構成を考える。 * 発表時間は5分程度となることを確認しておく。また、どのように資料を提示するかについても考えさせる。	
					4	3. 発表の準備をする。 (1)発表の仕方の工夫について考える。 * P107を参照し、「発表の構成」を表にまとめながら話し合うようにする。 (2)発表練習を行い、発表の内容と方法を見直す。	
					5	〈話そう・聞こう〉 4. 発表する。 (1)グループごとに発表をする。 (2)発表を聞いたあとに、感想交流や質疑応答をする。	
					6	〈伝え合おう〉 5. 自分たちの発表を振り返る。 * 発表後の話し合いで出された質問や意見、感想をもとに、よかった点や改善するとよい点を出し合うようにする。 〈ふり返ろう〉 6. 単元全体の学習を振り返る。 * テーマを決めて伝えたいことの中心を考え、資料を使って発表することは、今後どんな活動に生かせるか考えさせる。	
3学期	2月	1	漢字の広場⑥ 送りがなのきまり 教科書:P110 △送り仮名について理解を深め、正しく書く。	漢字	1	1. 学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 2. 二つの文にあるそれぞれの「集」の適切な送り仮名について話し合う。 * 格助詞に着目し、「～が集まる」「～を集める」と経験的に理解できるようにするとよい。 * 「読み方を区別する」「意味をはっきりさせる」という送り仮名のはたらきをおさえておく。 3. 動詞や様子を表す言葉など、活用のある言葉の送り仮名について知る。 * 辞典などを活用して調べる活動を取り入れ、送り仮名の法則性に気づかせるとともに、正しく使うことの必要性を感じることができるようにする。 4. 名詞のように活用のない言葉の送り仮名について知る。 * 名詞でも送り仮名をつけるものがあることも確認しておく。 5. P111下段の設問を解き、送り仮名のきまりについての関心を深める。 * 送り仮名のつけ方に迷ったときには、活用を意識したり、派生・対応関係にある仲間の言葉を想起したりして、仲間の言葉の送り仮名に合わせるとよいことに気づかせる。	【知識・技能】 ◎文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書いている。((1)ウ) 【態度】 ・積極的に同音の漢字、同音異義語について理解し、学習課題にそって同じ音の漢字を正しく使い分けようとしている。
3学期	2月	1 (書く1)	四年生で学んだ漢字⑥ 教科書:P112 △絵を見て想像したことをもとに、4年生で学んだ漢字などを使って文を書く。	漢字	2	6. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 7. 四年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 * 学校生活の様子がはっきりわかるよう書き表し方を工夫するようはたらきかける。 8. 書いた文を見直し、適切な表現に替えたり、まちがいを正したりして、発表し合う。 * 初めに書いた文と推敲した後の文を比べ、書き直してどこがよかったかを互いに指摘し合うとよい。 9. 学習したことを振り返る。	【知識・技能】 ◎前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。((1)エ) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B(1)オ) 【言語活動例】 ・事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。(B(2)ア) 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題にそって、教科書の絵を説明する文を書こうとしている。

3学期	3月	5 (書く1)	六 ノンフィクションを読み、筆者についての考えを交流しよう みすゞさがしの旅——みんなちがって、みんないい 教科書:P114 □筆者の心情や考えを読み、自分の考えをまとめる。 ★ここが大事: ノンフィクションを読む ☆学習用語: 詩／ノンフィクション／事実	読む	1・2	〈見通しをもとう〉 1. 単元扉を読んで、学習の見通しをもつ。 〈たしかめよう〉 2. いつ、どのようなできごとがあったのかを確認し、筆者の心情を考え、表に整理する。 * 「筆者の心情」については、読み手が叙述をもとに想像してまとめる場合もあることを伝える。 * できごとによっては全文引用ではなく、要約するようにまとめさせる。 * 経過年がわかるように「いつ」については、西暦を書かせる。	【知識・技能】 ◎文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。((1)カ) 【思考・判断・表現】 ○「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。(C(1)イ) ◎「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C(1)オ) ◎「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ) 【言語活動例】 ・詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。(C(2)イ)
					3	〈くわしくよう〉 3. 筆者は、みすゞの作品の、どのようなところに心をひかれたのか、文章中に取り上げられている作品や、「たしかめよう」で整理した表をもとに考えをまとめる。 * 『大漁』については、筆者の感想や、P128のみすゞ作品についての総括的な筆者の考えを参考にまとめるとよい。	
					4	〈まとめよう〉 4. みすゞを探し求める筆者について、考えをノートにまとめ、友達と読み合う。	
					5	〈つたえあおう〉 5. 筆者に対する自分の考えを友達と交流する。 * 交流の際には、互いの考えの相違点に着目し、「なるほど思ったところ」「いいなと思うところ」など、長所を中心に感想を伝え合うようにさせる。 〈ふり返ろう〉 6. 学習を振り返る。 * P132 の「言葉」の設問は、学習活動の中で適宜取り扱う。	
3学期	3月	2 (話す聞く1・書く1)	ひろがる言葉 これまで これから 教科書:P134 ■一年間の国語学習を振り返ったり、これからの学習について考えたりして、計画的に学習できるようにする。	書く	1・2	1. 一年間の国語の学習を振り返る。 * 上・下巻の教科書、学習のノート、作成物、プリント類(ポートフォリオ)などから振り返ることができるようにする。 * 『五年生で学ぶこと』や挿し絵やふきだしを参照させる。 * 楽しかったことを中心に思い出させる。 2. 自分が学んできたことを書き出したり話し合ったりする。 * 心に残っている単元や教材、学習活動、言葉などを具体的にメモさせる。 * 友達の発表を共感して聞き、学んできたことを共有できるようにする。 3. 六年生になったら2で出し合ったことがどのように広がっていくのか、想像したり希望を出し合ったりする。 * 五年生になって「またやってみたい活動」「もっと読んだり書いたりしてみたいこと」「取り組んでみたい活動」など、いろいろな観点で話し合わせる。	【知識・技能】 ○話の構成や展開、話の種類とその特徴について理解している。((1)カ) 【思考・判断・表現】 ○「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア) ◎「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【態度】 ・積極的に一年間の国語学習を振り返ったり、これからの学習について考えたりして、今までの学習を生かして計画的に学習しようとしている。